

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ひまわりユニット)

Table with 2 columns: Field (事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日) and Value (0191000231, 社会福祉法人 北海道友愛福祉会, グループホーム ゆうあい, 江別市豊幌美咲町23-14, 令和1年7月23日).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 入居者一人ひとりが自分らしく生活を送れるよう会議や日常的に話し合いをしている。
施設併設の管理栄養士による食事提供の為、栄養面や豊富なメニューが揃っている。
調理が少ない事で入居者様との時間が多く持つことができ、個別に関わる時間がある。
中央に大きな交流ホールがある為、行事やボランティア活動が容易に可能。
花壇や畑が完備され入居者様が容易的に利用できるようになっている。
近くに公園があり、休日は子供達が楽しく笑う声が聞こえてくる。
住宅街に立地しているが緑に囲まれて日中でも夜間帯でも静かな環境で過ごす事ができる
認知症カフェの実施。開設して2年目です。地域の参加が徐々に増えてきています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191000231-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field (評価機関名, 所在地, 訪問調査日) and Value (企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部, 札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階, 令和1年 8月21日).

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、江別市の東方向にある豊幌地区の閑静な住宅地に位置する平屋建て2ユニットのグループホームである。JR豊幌駅から徒歩圏内で、利便性が良く、家族や友人、知人の来訪も多い。グループホームは、同法人内の盲人養護老人ホームの敷地内に隣接しており、夏祭りや避難訓練は、合同で開催している。法人は、昨年45周年を迎え、「和顔愛語」の精神を基本として、盲人養護老人ホームや特別養護老人ホーム、ケアハウス、訪問介護、居宅介護支援、地域包括支援センター、保育園などを運営しており地域からも信頼が厚い。ホーム内は、建物正面が玄関で、中に入ると地域交流スペースとなっており、左右対称にユニットが配置している。交流スペースでは、地域包括支援センターと連携して、毎月認知症カフェの開催をしており少しずつ地域に広がっている。避難訓練や事業所の行事にはボランティアや地域の方が多数参加協力があり、地域の関わりが大きい。また、ふまねっとインストラクター取得者も沢山おり、認知症介護の事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement (self-evaluation), Achievement (external evaluation). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議等で伝達し、地域密着型サービスの意義と理念の共有している。職員には実践に向けて取り組みをお願いしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご利用者が地域と繋がりを絶たないよう買い物や散歩、地域の行事に参加している。認知症カフェの実施や自治会の集まりへ参加し地域の方と交流する機会が増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ出向く機会ができないので認知症カフェで認知症の理解や介護相談を実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや施設状況、認知症に関する事などを会議を通して報告・検討し、取り入れられる意見はサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとはイベント等で交流を実施しています。また、認知症カフェを実施してから今年度、市役所職員とカフェの状況を報告する機会がありました。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員採用時や内部研修で指定基準の身体拘束についての勉強会を開催しています身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修を通し、学ぶことができている。また、併設施設と研修やユニット会議に行動が虐待に繋がっていないのか検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修へ行き、会議時に伝達研修する。理念に添ってその人らしい生活ができるよう日々、話し合い、会議を通し、支援につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に本人・家族面談を行い、契約等の説明は補足を入れながらわかりやすく伝達している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望があれば、会議を通して検討し、可能であれば、運営に反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケートや職員全体会議を毎月開催し、職員の意見・提案を聞く機会を設け反映させている。 年3回、面接し意見等を収集している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回の人事考課面接を通じて、職員個々の努力や向上心を把握し、職員環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加を促し、職員にはスキルアップへの取組みを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内グループホームの連絡会(あおいの会)に加入し、職員間交流やサービスの質向上に取り組んでいる。江別オレンジRUNの活動に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れていけるように、職員とのコミュニケーションだけではなく、他入居者の会話の仲介等に心掛けている。本人が出来る事・出来ない事、好きな事・嫌いな事、要望・不安・困っている事が把握出来るように日々関わり、関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時や見学時に面談を行い、家族様とお話している。 サービス開始後は面会時に入居者様の生活の様子等を伝えるとともに、家族様の要望等もお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報をもとにアセスメントを行い、必要な支援を見極め、全職員で共有し、安心・安全な生活に円滑に移行出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃生活している中で支援するばかりではなくお手伝いを快くして頂ける関係築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からご家族様と連絡を取りやすい関係を築きご本人様とご家族様の絆を大切にし、共にご本人様を支えあい支援できる様務めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	習慣・趣味・家族との関係を断ち切らないよう尊重し支援できるようにつとめている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が関わりを持てるように職員が間に入ってこえをかけ、会話やレク活動ができる雰囲気作りやかかわりを持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の問い合わせや相談にはできる限りの支援を行えるよう適切な対応を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向や、表情などから思いを少しでも汲み取り生活できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人並びにご家族からお話を伺い、少しでも馴染みのある生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりのその日の体調や意欲に合わせ、休息の時間を設けたり、離床の機会を設けるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスや日々の引継ぎの中で利用者様の現状を話し合い、ケアの検討を行っている。本人、ご家族の思いと照らし合せながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の関わりで気付いた利用者様の出来る事などを職員間で伝達しあいケアの変更等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナルケアなどを通し、利用者様にとってどのようなケアや関わりが嬉しいのか、ご家族などと共に話し合いながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設との合同の行事に参加したり、ボランティアの方を招くなどして地域との関わりを持ち楽しい時間を設けられるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診はかかりつけ医を受診しているが、緊急時には必ずしも希望通りにならない事を理解して頂いている 通院困難の場合は送迎をサービスでしている		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	誤薬防止の学習を行っている 手順や氏名の確認の他、特徴的な薬の作用についても学習している 夜間などグループホーム看護師不在時でも利用者様急変時には電話で連絡を取るようになっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前カンファレンスを提起している 医療機関には日常の状況や健康状態を文書で情報提供している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度の認知症で高齢の場合自然な衰弱は受け入れるようにしている ご家族にも家族や職員の手でできることは何かを相談、提起しながら穏やかな最期を迎えられるようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車の呼び方など実習している 利用者ごとに緊急搬送時の情報を冊子にまとめている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年4回定期的に行っている 日中のみならず夜間を想定した訓練も年1回行っている 緊急持ち出し物品も定期点検している		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとり個々の人格を尊重しながらケアを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で、ご本人様の思いや意向を伺えるようにその方に合わせた言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ご本人様の体調やADL、参加意欲に合わせてレクリエーションや余暇活動の声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容面の徹底を心掛け、ご本人様が自身や他者との関わりの中で自信をもって関わられるようケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コップの水、はし、スプーン等の準備もしてもらっています。洗ったお盆を拭くことや片付けをもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に応じて食が進まない人には 経口栄養剤に変更して召し上がって頂いている。個人個人に応じた水分摂取に努めている。飲み込みがうまくいかない場合はゼリー状にして飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に応じた歯磨きをしています。義歯は必ず外して頂きます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人ひとりの排泄行動を把握し、それに合わせたトイレ誘導・介助を行っている。排泄時間、排泄の有無、量等を記録をし次のケアに繋げている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳製品、食物繊維などを提供し便秘にならないよう心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に浴った支援をしている	入居者様の体調、健康状態をチェックして週2回の入浴に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムを把握してその人に合わせた休息をしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人、一人が薬の内容や名前などのダブルチェックし、誤薬に注意して実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味や力を活かした役割や楽しみ事を提供し、充実した日々を送れるよう支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月ごとや季節ごとに合った外出レクや外食レクを設け、メリハリが持てたり四季を感じれるような支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご家族との話し合いで、入居者様は金銭を所持していない。今後、希望があればその都度対応していく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際は、家族や友人に手紙を書いたり電話をできるように対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけや、温かみのある空間作りを、入居者様と共に折り紙をしたり壁画作りをしたりして取り組んでいる。温度、湿度計を設置し換気にも気配りをし、環境を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内の共同空間では、入居者様同士雑談をしたり、自由に椅子やソファを設置し独りになれるよう居場所作りに工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるように、家具や寝具等は使い慣れた物を使用し、配置もご本人様やご家族様の希望を尊重している。思い出のある写真や小物を置くことで、その人らしく居室で過ごせるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが身体能力に見合った運動や歩行運動をし、自立した生活が送れる様に工夫している。居室前に名前入りの表札を貼ることで、ひと目でご自分の居室がわかる様に工夫している。		